

国債残高1000兆円超へ

過去最大の補正予算案 閣議決定

政府は26日、岸田政権で初となる経済対策を盛り込んだ2021年度補正予算案を閣議決定した。歳出の総額は35兆9895億円で、補正予算案としては過去

最大。財源の約6割は国の借金である国債で、残高は21年度末に初めて1千兆円の台に乗る見通しだ。

▼3面Ⅱ「分配」優先
補正予算案に計上した歳

出の9割近くにあたる31兆5627億円は、子ども向けの給付金などを軸とした経済対策に充てる。当初予算と合わせた21年度の一般会計の歳出総額は142兆

5992億円で、175兆円超だった20年度に次いで過去2番目の規模だ。

財源は、前年度の剰余金と見込みより増えた税収などが13兆9315億円あるほかは、22兆580億円の国債を追加で発行する。この結果、当初予算ベースで990兆円余とされていた21年度末の国債の残高は1004兆5千億円となり、初めて1千兆円を超える見込み。この補正予算案は12月6日召集の臨時国会に提出され、政府・与党は年内に成立させる構えだ。

日本の財政状況は先進国では突出して悪く、国内総生産（GDP）の大きさと比べた公的債務の比率は20年で256・2%。米国の127・1%やドイツの68・9%の数倍の比率だ。

ただ、岸田文雄首相はコロナ禍で傷ついた経済の立て直しに向け、当面は積極的な財政出動を続ける方針を示す。「財政再建の旗は降ろさない」としつつも、具体的な取り組みは後回しになっているのが実情だ。

（榊原謙）

掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.